

わくわくお薬教室

帝京大学薬学部 齋藤 百枝美

(〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-8436)

要旨

現在、セルフメディケーションが推進され、中学校、高校において薬の正しい使い方授業が実施されている。しかし、健康に関する良い習慣は小学校低学年で形成されること、また、薬の適正使用に関する正しい知識は健康維持のために生涯にわたり必要になるため、我々は小学校から薬の正しい使い方教育を行う必要があると考えている。

このため我々は、現在学習指導要領に導入されていない小学生を対象として「わくわくおくすり教室」を実施している。「わくわくお薬教室」では体験実習を通して薬の正しい使い方を学ぶプログラムおよび啓発教材を開発している。また、お薬教室の事前・事後の児童の意識変化を調査し、プログラムや啓発資材の評価を実施し、よりよいお薬教室の構築を目的とする。さらに、小学生の保護者も薬教育を受けていない年代であるため、保護者も参加する「親子でわくわくおくすり教室」も実施し、保護者の意識についても調査・研究する。

1. 「わくわくお薬教室」の目的

国民が医薬品を適正に使用することができるように 2012 年から中学校、2013 年から高校の薬教育が始まっているが、小学校の学習指導要領に薬教育は導入されていない。我々は小学校から薬教育が必要と考え、小学生およびその保護者を対象として「わくわくお薬教室」「親子でわくわくお薬教室」を実施し、その評価を行った。

「わくわくおくすり教室」「親子でわくわくお薬教室」は、薬を正しく使うための約束（ルール）があることについて体験実習を通して理解し、自分の健康増進に取り組む動機付けとなること、さらに薬の使用に対する望ましい態度の形成に寄与することを目指している。

2. 「わくわくお薬教室」の実施方法および内容

2-1. 「わくわくお薬教室」の対象者

夏休みに実施する「わくわくお薬教室」は小学校 3、4、5 年生の児童を対象として大学ホームページ、ポスター（図 1）、インターネット（大学イベント）を通じて

参加者の募集を行っている。午前・午後 2 回実施し、募集人数は 1 回 32 名、計 64 名である。場所は帝京大学薬学部の実習室であり保護者が同伴されるので、保護者に対する薬の適正使用の啓発も兼ねている。

春休みに実施する「親子でわくわくお薬教室」は小学校 3、4、5 年生とその保護者を対象として大学ホームページ、ポスターを通じて参加者の募集を行っている。午前 1 回実施し、募集人数は児童とその保護者計 32 名である。なお、2020 年 3 月の「親子でわくわくお薬教室」は新型コロナの影響で中止となったので、2019 年 3 月の「親子でわくわくお薬教室」について報告する。

参加者は、帝京大学の近隣の都内板橋区、北区ばかりでなく、千葉県、茨城県、神奈川県、静岡県、宮城県など広範にわたっている。

2-2. 「わくわくお薬教室」のプログラム

「わくわくお薬教室」のプログラムを表 1 に示す。「わくわくお薬教室」は小学生を対象としているため約 2 時間で終了するプログラムとして構成している。内容は講義：1. オープニングレクチャー：薬を使うのには約束（ルール）があること、薬は体の中でどうなるのか（薬の体内動態）、薬を決まった時間に飲むのはどうしてか（薬物血中濃度）、体験実習：2. 正しい手洗い実験、3. 目薬の正しい使い方実験、4. カプセル実験、5. 薬の正しい保管方法を知ろう、講義：6. クロージングレクチャー：今日の振り返り（くすりを使う時の 12 の約束、薬剤師の職能、修了証書の授与）などである。「わくわくお薬教室」は講義（オープニング、クロージングレクチャー）と健康を守り薬の使用に必要な正しい手洗い実験は毎回実施し、その他のプログラムについては毎回体験実習や啓発資料を変えて実施している。

2-3. アンケート調査

2019 年 7 月 27 日の「わくわくお薬教室」は欠席者がおり、児童 54 名とその保護者 56 名を対象として事前・事後にアンケート調査を実施した。2019 年 3 月 16 日の「親子でわくわくお薬教室」は児童 10 名、保護者 10 名を対象として事前・事後にアンケート調査を実施した。いずれもアンケート回収率は 100%であった。アンケート調査は、帝京大学倫理委員会の承認（帝倫 15-018-2 号）を得ている。

3. 「わくわくお薬教室」の成果

3-1. 「わくわくお薬教室」アンケート結果

薬の正しい使い方の知識（10 項目）の正答率は、児童が事前 81%から事後 99%、保護者は事前 88%から事後 99%へ上昇した（図 2、図 3）。児童の事前の誤った回答として最も多かったのは「目薬をつけた後は目をぱちぱちする」（30%）であった。児童の苦手な薬の剤型は注射剤：20 名、散剤・顆粒剤：13 名、カプセル剤：12 名、

坐剤：9名の順であり、保護者が子供に使いにくい剤型はカプセル剤：28名、散剤・顆粒剤：19名、点眼薬：13名、坐剤：12名、錠剤：12名の順であり児童と保護者間で乖離が認められた（図4）。事後の実習項目の理解度については児童、保護者全員が「よくわかった」と回答した。また、事後「もしあなたが病気になって薬を使う場合、今回の授業や体験学習は役に立つと思いますか」について、児童、保護者全員が「とても役に立つと思う」「役に立つ」と回答した。

3-2. 「親子でわくわくお薬教室」アンケート結果

「親子でわくわくお薬教室」の児童の参加理由としては、おもしろそうだから：6名、親に勧められたから：2名、薬剤師になりたいから：1名、薬の正しい使い方を知りたいから：1名であった。保護者の参加理由としては、薬の正しい使い方を知りたいから：4名、おもしろそうだから：3名、子供が薬剤師になりたいから：1名、ポスターを見て興味があったから：1名、その他：1名であった。

薬の正しい使い方の知識（10項目）の正答率は、児童が事前76%から事後99%、保護者は事前86%から事後100%へ上昇した（図5、図6）。児童の事前の誤った回答として最も多かったのは「目薬をつけた後は目をぱちぱちする」（20%）であった。

児童の苦手な薬の剤型は散剤・顆粒剤：5名、注射剤：4名、坐剤：4名、点眼剤：3名、カプセル剤：2名、錠剤：2名、の順であり、保護者が子供に使いにくい剤型は注射剤：6名、坐剤：5名、点眼剤：4名、散剤・顆粒剤：4名、吸入剤：2名の順であり児童と保護者間で乖離が認められた（図7）。

事後の実習項目の理解度については児童、保護者全員が「よくわかった」と回答し「親子でわくわくお薬教室」の理解度は高かった。事後の「もしあなたが病気になって薬を使う場合、今回の授業や体験学習は役に立つと思いますか」について、児童、保護者全員が「とても役に立つと思う」「役に立つ」と回答した。また、事後の「今回の授業や体験学習の内容について、家族や友達、まわりの人に話そうと思いますか？」について、児童、保護者全員が「話そうと思う」と回答した。

4. 考察

現在、子供から高齢者まで、一次予防やセルフメディケーションの実践が求められており、適切なセルフメディケーションの実践や医療用医薬品の使用には、リスクとベネフィットを併せ持つ医薬品を正しく使うという態度が醸成されていることが必要になり、医薬品の適正使用教育はそのために必要不可欠である。国民の薬の適正使用のために薬剤師は大きな役割を果たしていく必要があると考えられる

今回の「わくわくお薬教室」「親子でわくわくお薬教室」の内容の理解度は児童、保護者ともに非常に高かった。理解度の高い理由としては、講義だけでなく体験実習などを通して児童が自ら医薬品の適正使用について能動的に学んだことが挙げられる。すな

わち、早期から体験実習によるわかりやすい薬教育を行うことで、児童が医薬品の適正使用について十分に理解できると考えられ、「わくわくお薬教室」「親子でわくわくお薬教室」は薬の適正使用教育として有用と考えられる。

今後、発達段階に応じた学習や実習など多くの工夫が必要になる。このため、さらにプログラムの開発を進めたい。また、薬教育を受けていない保護者や高齢者など、全世代を対象とした薬教育が早急に求められる。

5.まとめ

「わくわくお薬教室」はアンケート結果からも薬の適正使用を習得する有用な方法と考えられる。2019年8月の医薬品・医療機器等安全性情報 No. 365 では、厚生労働省研究班の実態調査により2018年に薬物依存などで全国の精神科で治療を受けた10代患者の4割以上が、せき止め薬や風邪薬などの一般用医薬品を乱用していたことが報告された。10代の一般用医薬品の乱用を防ぐためにも、薬教育は健康に関する良い習慣が身に付く小学生から開始し、年齢に応じて体系的に行うことが望ましいと考える。さらに、薬教育を受けていない保護者や高齢者などの国民的な薬教育が早急に求められる。

6. 資料、表、図及び写真など

わくわくお薬教室 2019

12の約束を知ろう！

日時：2019年7月27日（土）
午前：10：00～12：00
午後：14：00～16：00
定員：各32名
場所：帝京大学板橋キャンパス大学棟4階
410-2
対象：小学校3・4・5年生
参加費：無料

◆くすりを使うときの12の約束
◆体験実習（手洗い、目薬の正しい使い方、カプセル実験、くすりの保管方法を知ろうなど）
◆下記ホームページでご確認の上、お申込みください。
<http://www.pharm.teikyo-u.ac.jp/>
◆下記のメールアドレスに申し込んでください。応募要領をご確認ください。
kusuri@pharm.teikyo-u.ac.jp

◇お問い合わせ 帝京大学板橋キャンパス
薬学部 薬学実習推進研究センター
TEL 03-3964-1211 内線44432

7月1日からお申込み受付を開始します！
（先着順 午前32名、午後32名まで）

帝京大学薬学部 子供のためのお薬教育

12の約束を知ろう！「わくわくお薬教室」2019

目的：
くすり教育を通してくすりを正しく使うための約束があることと薬を
通じて健康に寄り組み動機づけとなること。さらにくすりの
使用に対する正しい態度の形成に寄与することを目標としています。

プログラム(予定)	※進行状況により変更となる場合があります
9:30～	受付開始
10:00～	同会の挨拶・プログラムの説明
10:05～	オープニングレクチャー「くすりを使うときの12の約束」
10:15～	体験実習 ①
	①正しい手洗体験 ②正しい目薬の使い方 ③くすりの種類とカプセル実験 ④くすりの保管方法を知ろう！
11:50～	クローゼットレクチャー「※日あふりが原因」
12:00～	同会の挨拶

午後のプログラムも同様の内容を予定しています。

申込方法：
帝京大学薬学部ホームページ（<http://www.pharm.teikyo-u.ac.jp/>）の「What's New」に申込方法を掲載しています。申込は定員に限り次第、締め切らせていただきます。

【申込受付期間】2019年7月1日～ 定員に限り次第
【お問合せ先】03-3964-1211（内線番号44432）まで
【記載要領】1.氏名(漢字) 2.氏名(ひらがな) 3.小学3・4・5年生
4.午前・午後の希望 5.住所 6.小学校名 7.保護者氏名 8.緊急連絡先

【注意事項】
・グループワークの写真撮影とアンケートを行います。撮影された写真とアンケートは広報活動および学会発表等に使用される場合があります。ご了承ください。撮影とアンケートをご許可いただけない場合は、その旨をお知らせください。
・当日は駐車場 駐車場は利用できないため、公共交通機関を利用して大学へお越しください。

図 1. 「わくわくお薬教室」募集ポスター

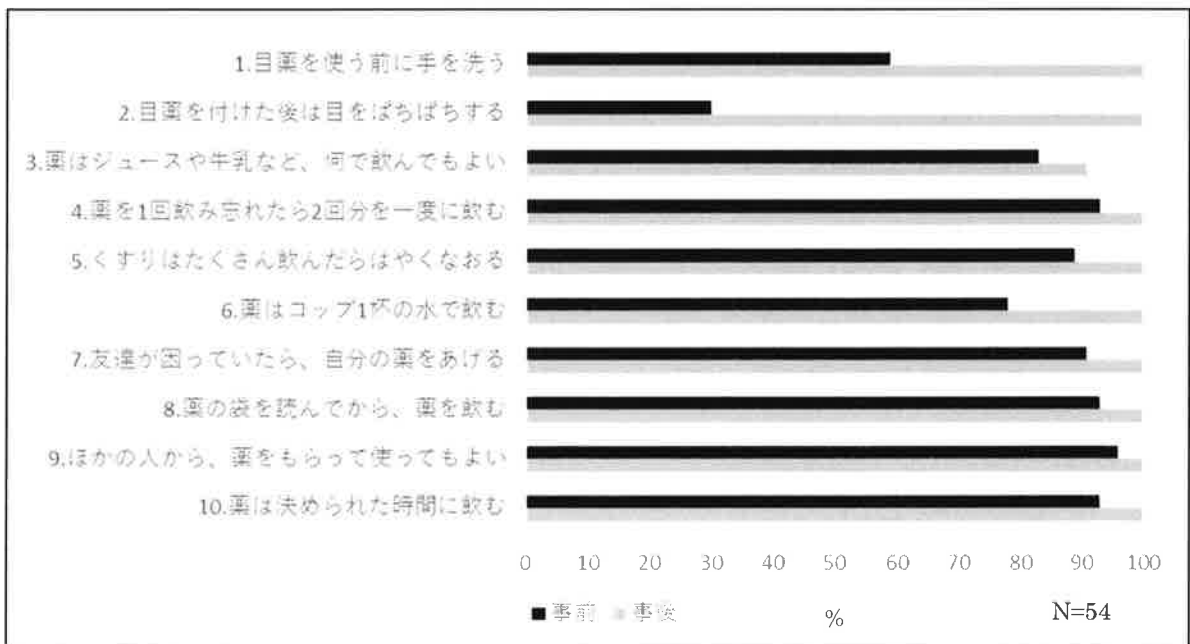


図 2. 「わくわくお薬教室」児童の正答率の事前・事後の変化

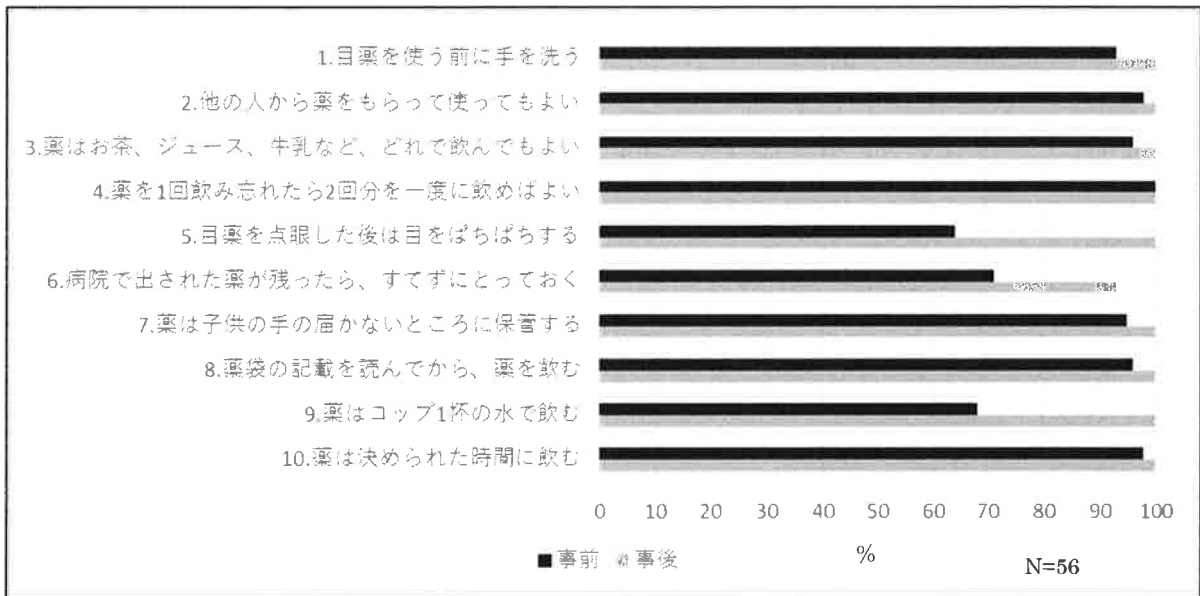


図 3. 「わくわくお薬教室」保護者の正答率の事前・事後の変化

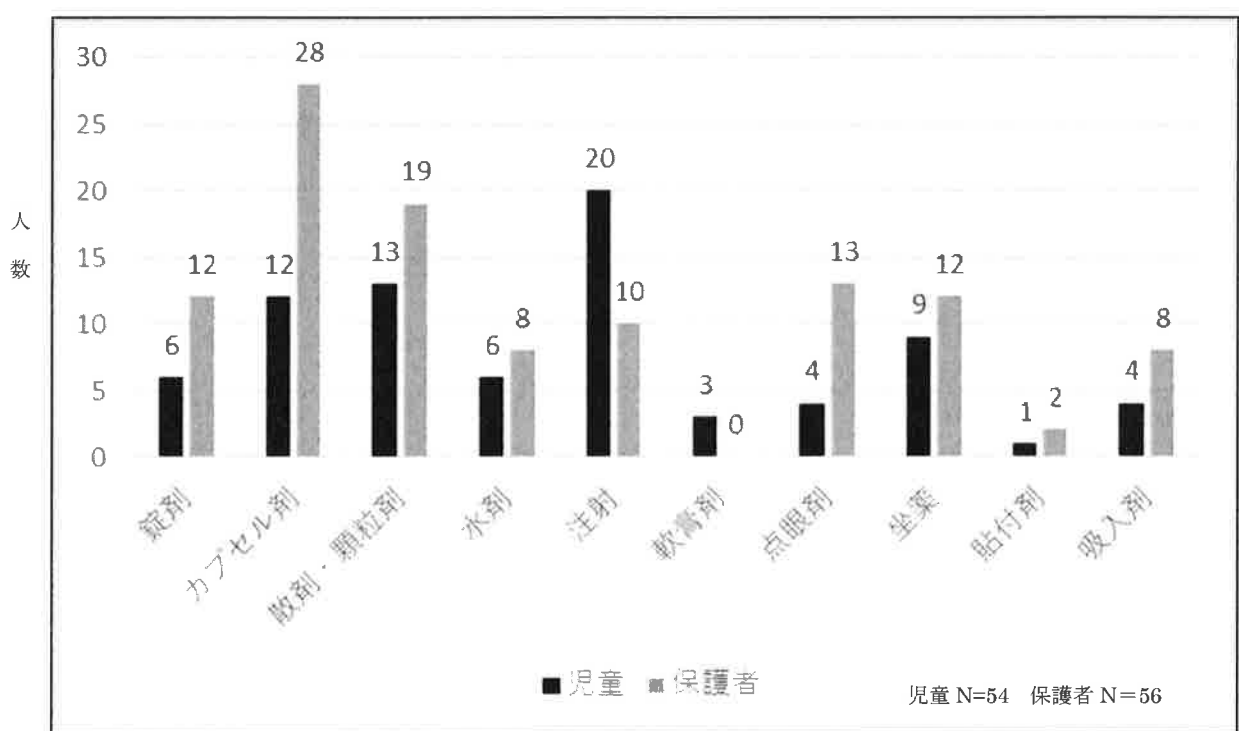


図 4. 「わくわくお薬教室」児童の苦手な薬と保護者が子供に使いつらい薬 (事前、複数回答)

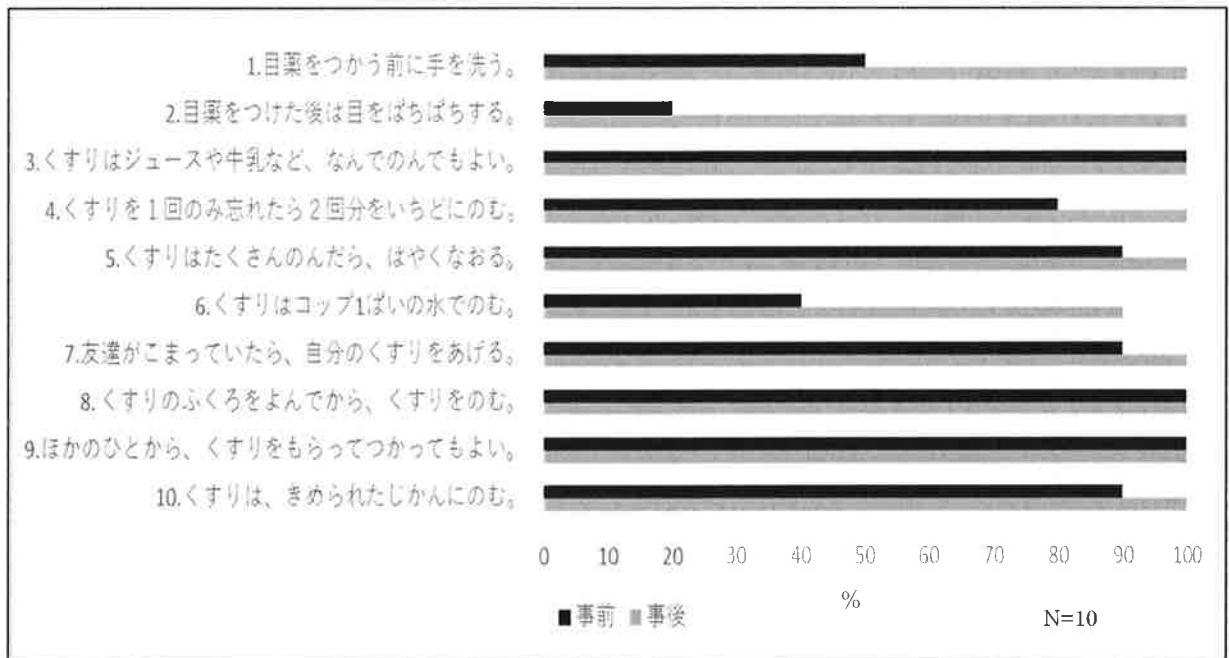


図 5. 「親子でわくわくお薬教室」 児童の正答率の事前・事後の変化

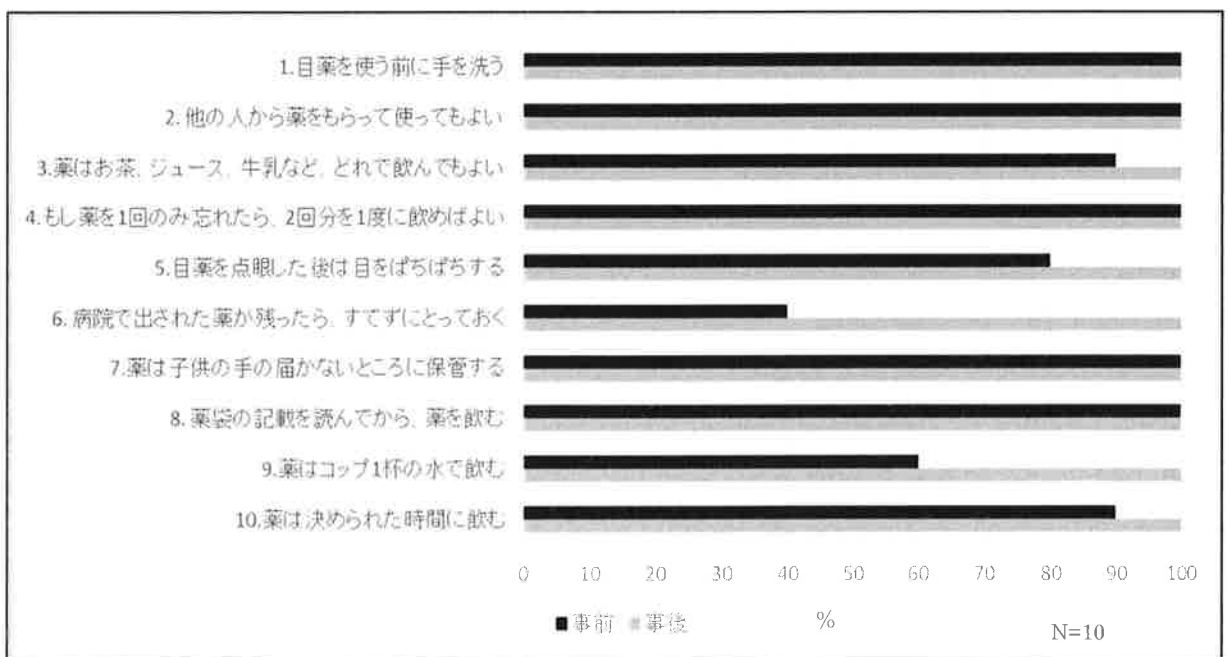


図 6. 「親子でわくわくお薬教室」 保護者の正答率の事前・事後の変化

人数

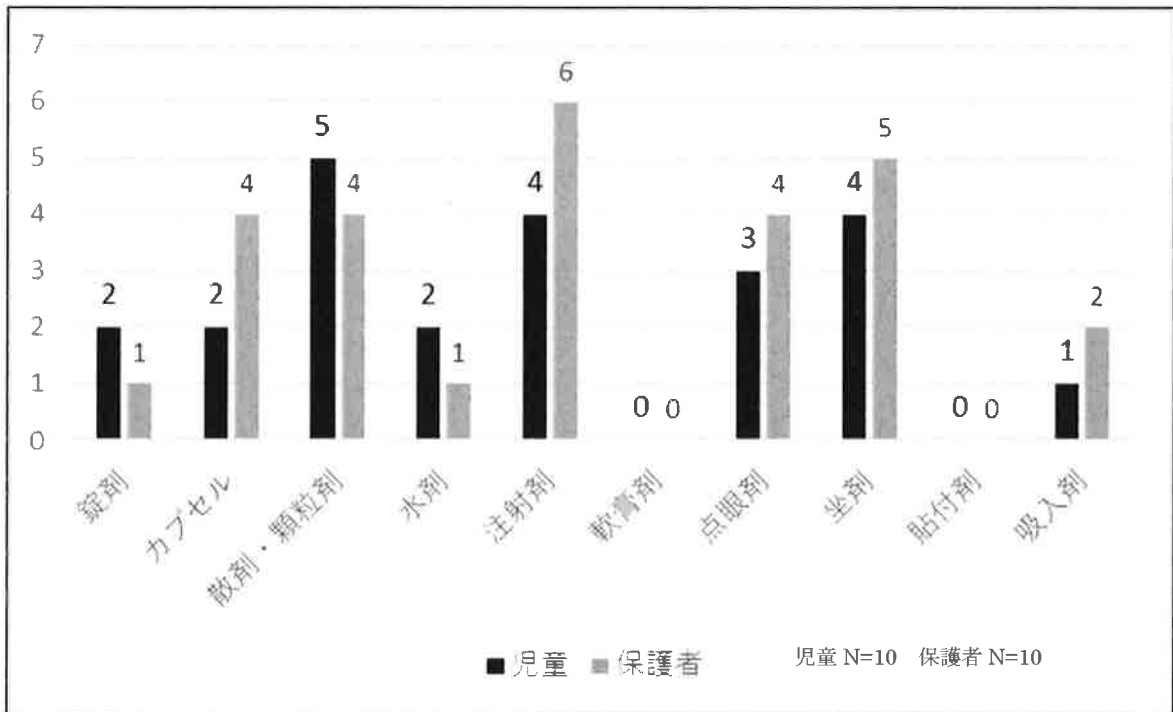


図 7. 「親子でわくわくお薬教室」 児童の苦手な薬と保護者が子供に使いつらい薬 (事前、複数回答)

表 1 わくわくお薬教室のプログラム

項目	内容	資材	時間
授業 1 オープニング レクチャー	薬を使うときの 12 の約束	薬物動態パネル、血中濃度の推移パネル、配布資料	10 分
実験 1 手洗い実験	グリッターバッグを使い、正しい手洗い方法を習得する。	グリッターバッグ、ユニセフ手洗い DVD、手洗い石鹸、紙タオル	30 分
実験 2 目薬の正しい 使い方実験	目薬の正しい使い方を習得する。	目薬の容器、クイズ	15 分
休憩			10 分
実験 3 カプセル実験	薬には様々な種類があること、薬はコップ一杯の水で飲むことを学ぶ。	カプセル見本 (00~5 号)、0 号カプセル、シャーレ、水、食道モデル、素錠、口腔内崩壊錠	15 分
実験 4 薬の保管方法 を知ろう	薬の正しい保管方法について習得する。	UV ビーズ、UV チェッカー、保管条件を変えた粉の見本	15 分
授業 2 クロージング レクチャー	今日は何を学びましたか? (振り返りの授業)	配布資料、テキスト、修了証書、薬を使うときの 12 の約束	15 分